

2021年度 第19期

事業報告

(事業年度:令和3年4月1日～令和4年3月31日)

2022年6月

特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ

<2021 年度概要>

2021 年は、中心市街地にたけし文化センター連尺町を建設して 3 年。そして世界を席卷したコロナ禍の中で、レッツは街へと本格的に始動した。浜松の衰退のシンボルと化している「松菱跡地」。この 20 年間開くことがなかった 1400 坪の広大な空き地で、障害者施設も運営するレッツがアートイベントを行った。例えば 2008 年、旧文泉堂書店の空きビルを借りて、「たけし文化センターBUNSEND0」を実践した。重度の障害者のくぼたたけしを文化創造発信の核に据えた、文化センターをアートを介して作り上げた。これはこの街に本格的なアートプロジェクトを持ち込んだ最初の活動だった。その後、ゆりのき通りの活動が活発化し、万年橋パークビル、カギヤビルのアトスペース化、そして鴨江アートセンターがこの街にできた。

そして、2020 年。コロナ禍の中の街の衰退を何とかしたいと、地域の皆さんと一緒に街づくりを考える「浜松ちまた会議」が誕生した。街のステークホルダー30 団体に所属していただき、「まちづくりを考えたら福祉にたどりつた」といったキャッチフレーズとともに、福祉的な視点を街に注ぎ込もうとしている。3 月に行ったシンポジウムは、全国で 1000 回以上の視聴があるなど、この課題の必要性が示されている。このベースとなっているのはたけし文化センター連尺町やアルス・ノヴァの活動とともに、「たけしと生活研究会」も重要な役割を果たしている。重度知的障害者が街で暮らし、生活する中で、「人の幸せとは何か」を問い続けている。重度障害者であっても、人として、人の中で生き生きと生きること。それを 3 名の障害者は実現している。彼らによって、障害者の新しい生き方とともに街のあたらしい在り方が見えてきた。

障害福祉事業にも大きな変化があった。障害児放課後支援の充実によって、アルス・ノヴァ設立当初からレッツを支えた障害児童(小学生～高校生)の利用よりも、はるかに大人の利用が増大している。毎年確実に利用者が増えている。また精神障害の人たちの問い合わせも多かった。就労ではなく居場所として活用したいといった要望は、現状のサービス(就労継続 B 型)では受け止めにくい。発達障害、軽度精神障害者に対する浜松市の課題が透けて見える。ヘルパー事業所 ULTRA の活動も軌道に乗りつつある。圧倒的に足りないヘルパーを何とか排出するために、日本財団の助成を活用して、今年度「強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)」を 5 回実施、90 名の資格者を養成した。その内の 20 名弱が浜松の福祉事業に就労した。しかしまだまだヘルパーは不足している。需要と供給のバランスが最も悪い事業であることには変わりがない。障害のある人が自由に生きるために、やはり個を主体とした支援は必要である。この街でこの事業がどれだけ成長できるのか試されている。

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

理事長久保田翠

(1)障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

①アルス・ノヴァ(連尺町)(定員20名・日中一時支援定員10名)

■利用者数の変化

生活介護では19名(一日平均 13 名)、日中一時支援は土曜日を中心に 10 名(平均5名)が利用している。生活介護利用者の利用数はコロナウィルスの流行に影響を受けることなく、安定して通所していただけだ。日中一時支援利用者は他事業所と併用されている為、自粛することが多くあったものの、流行状況に合わせて利用を再開される方も見られるようになった。生活介護利用者で利用日数を増やした利用者が居る。新年度に入り 1 名の利用者が新たに利用開始した。浜松特別支援学校卒業生、在学時の実習を経て利用することになった。

■「しえんかいぎ」と「支援会議」の実施

利用者さんを中心とした各事業所・相談支援・親御さん等と共に定期的に支援会議を行い、生活支援、QOL 等を議論し深めることができた。また、スタッフ内の細かな支援方針の共有に「しえんかいぎ」を毎月第四土曜日に行うことができた。

■新型コロナウイルス感染症対策

感染症対策を行いながら事業運営を続け、利用者・スタッフに感染者や濃厚接触者が現れた際は速やかに保護者・本人・関係機関に連絡が取れるよう、前年度以上に増して体制を整えて対応することができた。また、利用者・スタッフ・来訪者の検温記録を徹底し、換気・消毒を定時で行った。運動不足とならぬよう市街地散策や公園や海などの屋外に積極的に出かけ体力維持に努めた。エアロビクス運動をインストラクターを招いて行い、習慣的に体を動かすことができた。

■市街地の中心地「松菱跡地」でイベント「オンラインクロスロード」を行う

長らく空き地となり、中心市街地空洞化の象徴とされてきた松菱跡地に利用者とスタッフと共に居場所づくりを行うことができた。誰にも開けることができなかつた地を障害を持つ彼らと共に市民に解放し様々なイベントを通して交流を深めることができたのは感慨深いものであった。

■地域との交流

感染症対策を守りながら積極的に市街地に出かけることができた。ペンやテープ等の創作備品を散歩がてら買い物にでかけたり、好きな食べ物を購入しにスーパーマーケットに出かけたり、商店街の雑貨屋さんで布切れを買いに出掛けお喋りを楽しんだり、長らく低迷していたコーヒー活動を再開する為に市街地の喫茶店に出かけコーヒー研究をしたり、高層ビルの壁に向かって声を出し自らの声を楽しむ通称:壁活(かべかつ)に勤しむことができたり、などなど日常的に市街地や商店街を利用活用し、自分たちの好きな事を通して地域に出かけ、時として出くわした方達と親しくなることができた。

■学校との交流

佐鳴台小学校、大平台高校、聖隷クリストファー中学校、富塚中学校との交流事業を実施した。感染症対策を徹底し、屋外で利用者と直接交流することができた。

■その他活動

二階フロアで自由に楽器を打ち鳴らし、自然発生的に音楽セッションが繰り広げられたり、声を掛け合った利用者同士やスタッフと利用者でバンドを組み、月一回定期的に行われる音楽イベント「玄閑ライブ」で発表し楽しむ姿が見られた。発表の機会は利用者にとってのハレの場となり、特別な思いで作曲活動に勤しむ者もいる。



②アルス・ノヴァ入野(入野町)

1・生活介護(定員 10 名)

実利用者数 11名、毎日平均 7 名が通所しており、3名増えた。(放課後等児童デイサービスから大人のサービス利用に切り替えた方が2名と新規の方 1 名) これまでの過ごし方や本人の興味、課題などを共有し、利用者と共に各職員が果敢にこれからの過ごし方を模索しています。

■感染症対策

限られた空間の中、マスク着用が出来ない利用者さんも多いため、積極的に屋外活動を行ない、換気を心がけている。体調に変化が見られた場合はその都度検温し、様子を職員間で共有している。特性に合わせて「たけぶん連尺」で活動する機会を作り、施設内が密にならないようにしています。

■健康

それぞれが楽しみながら出来る運動を心がけてきたことで、運動や屋外活動が定着し、お散歩やダンスだけでなく、ヌレスビー(濡れた円盤を使用する利用者が考えた新しいフリスビー)が生まれるなど、運動不足解消のための遊びにアルス・ノヴァならではの発展が見られるようになってきた。近所にある神社仏閣や佐鳴湖などの豊かな自然を強みに、心と体の健康を図っている。表情や言動などを見て、気になることがあればその都度記録に残し、職員同士で共有し、ご家族に伝達している。また、疲れしている様子であれば横になれるような場所を作るなど、本人の体調に合わせて過ごし方を柔軟に変えている。

■講座

引き続き「アートインコミュニティ3」や「版画講座」、「アロマ講座」を開催している。

■戸外活動、他者との繋がり

利用者さんの要望だけでなく、新しい体験や興味、才能を引き出したりなどでの発展を見据えての活動を心がけている。新しく出来た近隣施設との交流や遠方へのドライブ、大平台高校や佐鳴台小学校との交流などの屋外活動の機会がより多くなった1年だった。連尺で開催される玄関ライブやエアロビなどのイベントにも引き続き参加している。本人の特性や要望などを考慮して、入野と連尺を行き来して通う方もおり、今後も利用者の可能性を狭めないように柔軟な姿勢で取り組んでいきたい。



2・就労継続支援 B 型(定員 10 名)

■利用者数の変化

2021 年度、新規メンバーが1名加わった。一方、2名のメンバーが他の就労継続支援A型の事業所に移った。2名とも、年度中盤ごろから就労への意欲がみられ、相談支援員とともに就労への準備を行い、移行となった。

この2、3年、20 歳前後の新規メンバーが増えている。これまでのメンバーは、就労経験のある方や就労への意欲がある方が多かったが、就労への不安からか未経験でありながら最初から意欲が少ない方もいらっしゃる。社会を生きる選択肢のひとつとして就労を体験したり考えたりできるメニューづくりを次年度は考えていきたい。

■のヴあてれび

2020 年に外注依頼をいただいた方から、2021 年も継続して映像制作の仕事をしていただくことができた。制作では、市内企業への取材を行ったり、プロの映像カメラマンを招聘して撮影を行ったりすることで、専門的な現場を体験する環境をつくり、のヴあてれびクルー総出で業務に取り組んだ。また、イベントやシンポジウムを YouTube や ZOOM で配信するライブ配信業務も引き続き精力的に行っている。今年度は、毎月開催する雑多な表現のステージ「玄関ライブ」、一線で活躍する DJ を呼んで福祉施設を会場に行われるクラブイベント「クラブアルス」など、音楽系イベントが増えたことで音楽に特化した Youtube チャンネル『NovaTV Music』を新たに開設。プロモーションビデオの制作やステージ撮影などといった、今までとは異なる業務の開発にも取り組んでいる。

■のヴあてれび業務

・浜松市役所健康福祉部障害保健福祉課 令和 3 年度障害者雇用支援セミナー『経営者、人事担当者のための障害者雇用促進トップセミナー』

撮影/編集

<https://youtu.be/sjIAe4YWvjg>

・NovaTV Music

撮影/編集

<https://www.youtube.com/channel/UCgVh1DeZ70bq4e3KD0lMk8w>

・「浜松ちまた会議」シンポジウム 2022『まちづくりを考えたら、福祉にたどりついた』

撮影/ライブ配信

<https://youtu.be/38bzQtdP9BY>

■玄関ライブ

たけし文化センター連尺町(以下、たけぶん連尺)1F を会場に、毎月第 3 土曜日に開催しているライブステージ。2021 年度は 8 回(vol.13~vol.20)開催した。

玄関ライブは、出演者と参加者、障害のある人もない人も混ざる場であり、精神障害や発達障害のある利用者さんを中心とした発表の場でもある。それぞれのメンバーが作詞・作曲、詩の朗読、小説の発表、バンドを組んでメンバー間でのやりとりなどが生まれている。(タムラムラ、ムラキング、金子篤など)

■創作と物販

日頃から刺繍や羊毛フェルトなどを通して自分の気持ちを表現したり、リラックスするために創作をしているメンバーたちの成果物を、旧松菱百貨店跡地で開催された「オン・ライン・クロスロード」で販売をした。

販売を通して、自分の表現に対するリアクションを体感したり、制作した本人自身がお客さんに説明したりして、外部の方々に表現を届けるとともにコミュニケーションする機会となった。

また、制作をしていないメンバーもレジ係や呼び込み係として協力することで、日常ではあまり見られないメンバー同士の交流ができた。

■居場所 @黑板とキッチン

2021年、万年橋パークビル1階にあるフリースペース「黑板とキッチン」がボランティア運営に変わったため、ボランティア店番を週に1度行いながら、精神障害・発達障害のあるメンバーたちの居場所を施設外につくった。

居場所では、普段施設内であまり話さないメンバー同士が交流する機会だけでなく、黑板とキッチンを訪れるお客さんも混じって話す機会が生まれた。また、体調・生活・恋愛・仕事・表現・趣味・福祉サービスといった身近なテーマをみんなで話したりした。続けていくうちに、メンバーである当事者の方同士が相談したり情報交換をするよう姿が増えていった。

■表現活動

2021年度は、これまで行ってきた表現活動が施設外の様々な場所へ広がっていった1年であった。

スタッフとともに音楽活動をするタムラさんは、ラジオに出演し、楽曲を披露した(FMラジオ局 K-mix の『Ritomo 電波上の二点間』)。ムラキングさんは、マガジンハウスが運営するウェブマガジン「ここ」で連載が始まった(『妄想恋愛詩人・ムラキングの「ポロリとひとこと」』)。スタッフや編集部の方との対話形式で、日頃考えていることや抱えている悩みをテーマに連載をしている。のヴあてれびのクルーであり自身も映像制作を行う S さんは、初めて施設外の出演者募集を実施。3名の応募があり、その中から県内在住の方の出演が実現した。完成作品は国内映像コンペに応募した。まだまだ続くコロナ禍で不安を抱えながらも、表現活動は、気持ちの整理や不安の発散となっている。同時に、個人の表現が少しずつ広がり、新たな出会いや交流が生まれている。



③アルス・ノヴァ ULTRA

1・ヘルパーの人材育成と新規採用

障害のある人の文化的で自立した生活を支えることをミッションに掲げる訪問介護事業所アルス・ノヴァ ULTRA は、開設から2年目を迎えた。

2021年度、レッツでは日本財団からの助成を受けて全6回開催した「強度行動障害支援者養成研修」によって、90人の重度訪問介護・移動支援の従事資格保持者を輩出することができた。アルス・ノヴァ ULTRA では、研修受講者から10人を登録ヘルパーとして新規採用した。内一人は、コロナ禍によって失職し研修を受講したが、現在はフルタイムワーカーとしてシェアハウスを拠点にした自立生活支援の現場で活躍している。また、レッツの活動に関心を寄せる方々にとっては、登録ヘルパーとして働くことは、自身の生活や本業のかたわらで、レッツの活動に参加するきっかけとしても機能している。

様々なコミュニティに属する人が介助者として関わることで、例えば外出先に自分の知り合いの店を提案するというような形で、ULTRA のサービスを利用する当事者の顔見知りを増やし、新しいやりとりを生み、ともにコミュニティを耕すことにつながっている。

2・重度訪問介護 | シェアハウスを拠点にした自立生活支援

レッツの運営するたけし文化センター連尺町のシェアハウスでは、3人の重度知的障害のある青年たちが親元を離れた暮らしを実践しており、ULTRA では他の関係する事業所とも連携しながら、重度訪問介護サービスの提供を通じて、彼らの生活支援に携わっている。

3人とも、シェアハウスだけでなく親元＝実家も生活拠点としているが、スタッフが増え支援体制の拡充することに伴って、徐々にシェアハウスで過ごす日数が増え、生活の軸足をシェアハウスに移行している。

2021年度は、これまで当事者の家族だけに頼らざるをえなかった体調面のケアに関する相談を、外部の訪問看護・訪問診療のサービスを利用することで、生活支援のチームで担える体制をつくることができた。関係する事業所間の情報共有や調整の仕事を、コーディネーターとして、ULTRA のスタッフが行っている。

生活をシェアハウスで完結させるのではなく、好きなこと・楽しんでいることをきっかけに、街角での「石遊び」、飴コーナーを巡り鑑賞する「アメ活」、高架下の日陰で夕涼み、桜の木の下で「詰め物活動」などなど、日々街をリビングルームとして活用している。



3・移動支援・行動援護

ULTRA では移動支援・行動援護のサービス提供を通じて、外出の支援を行っており、2022年3月時点で、移動支援を3人、行動援護を1人の方が継続的に利用している。

休日等の外出では当事者と介助者の関心のもとに、音楽イベント、マルシェ、フリースペース、独立系書店など、浜松の街の様々な行き先を提案した。

移動支援では、休日等の外出だけではなく、シェアハウスを活用して生活体験の機会も提供した。

(2)障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく一般相談支援事業
今年度事業実施なし

(3) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業
今年度事業実施なし

(4)児童福祉法に基づく障害児通所支援事業
放課後等デイサービス アルス・ノヴァ(定員10名)

■事業運営の状況

4名が卒業(うち2名はアルス・ノヴァ生活介護へ)、新たに1名の利用があったため、2021年度の実利用者数は13名で、毎日平均4から5名程度が通所した。

利用者減から相談支援事業所に紹介をお願いしたり、発達級受け入れを模索し近隣の小学校に営業に出向くなどしたものの、見学、体験を経て実際の利用に至るのはごく一部に限られるなど、新規利用はあるものの、数年先には卒業による自然減でサービス終了に向かう状況である。一方で次年度中に連尺町の施設に移転し中心市街地で運営を試みる事が決定した。既存の利用者の中には利用が難しくなるケースもあるが、立地を生かした路線バスでの利用の提案、またこれまで利用の少なかった重度以外のタイプを受け入れる可能性なども含め、新しい施設のかたちに向けて舵を切ることになった。

■感染症対策など

引き続き毎日の利用時検温、基本的な感染症対策などに留意しながらの運営になった。施設周辺でも感染や濃厚接触の情報が出たこともあったが幸運にも放課後等デイサービス利用者で感染者が出ることはなかった。

新型コロナ関連ではないが、成人の利用者で発作が起きた場合の対応を整備するのに伴い、放課後等デイサービスでも施設利用中に急病、発作等が起きた場合に備え、救急隊員に病歴や障害特性等を簡易に伝達できる「しずおかサポートファイル」の整備など緊急時対応の準備を看護師のアドバイスに従いながら進めた。

■活動

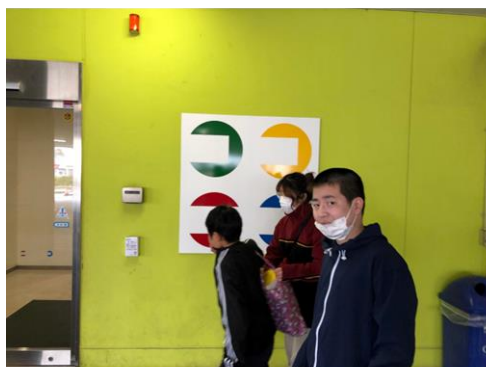
上記のように新型コロナ対策に留意しながらも、今年度はそれほど神経質になることなく外出を行っていた。お花見に行き、近隣の電気屋でチラシを集め、買い食いし、寺院でコイを愛で、施設周辺の民家でご挨拶をして室外機を観察させていただいたこともあった。

特に土曜や長期休暇中は送迎車を使ったお出かけが行われ、隣県の児童学習施設や動植物園、島田市ジャンボ干支、はたまたスタバで午後のひとときを過ごした。

平日は学校ともご家庭での生活とも違う、放課後の時間だからこそ、ニュートラルな視線で一人一人の興味を尊重し付き合うことに努めた。利用者の活動、それを支える活動、スタッフの興味を持ち込んで行われる活動、悪ふざけで笑いあったことなど、それぞれが互いに自分らしく存在する中から、名前のつくものも、つかないものも多くの活動が生まれ、また消えていった。

以下に活動の一端を列挙する。

無限ほら吹き／散歩(砂が気になって進まない)／メントスコーラ／公民館のおそうじブーム／ホコリアーあ活動／文字をすべて「ん」に置き換える活動／夕方訪れる不安を和らげる周囲の行動指針／お絵かきまたは色鉛筆キュッキュ音活動／詩作と恋バナと歌声スナック活動／ゲームまたはゲーム接待／大声、まねっこブーム、尊敬する尾張さんになりたい／おやつ作り、パンケーキ作り／腸活バナナヨーグルト／ねんどブームと作品破壊ブーム／DVD 戦争、空前の白雪姫ブーム、DVD 応援フタット活動／人格付きボールとのおつきあい／スイカ割り、水浴び、水鉄砲、水ピタゴラ装置作り／芋版はんこ作り



(5)児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

今年度事業実施なし

(6)文化センター事業

①「ともに暮らす」事業

1・ゲストハウス、シェアハウス事業

シェアハウスで障害者が、多様な人と関わる機会を持てるように、ゲストハウスの運営や一般からのシェアメイトの募集を行なっている。ゲストハウスの利用者は、コロナ禍の影響で多くはなかったが、宿泊者に PCR 検査をしてもらうなど感染対策をして 26 日稼働した。またシェアメイトとして他県から来た青年が 4 ヶ月間滞在し、生活を共にした。

2・たけしと生活研究会

昨年度から引き続き、WAM 助成を受け、重度知的障害者の生活について研究する事業を行った。たけし文化センター連尺町のシェアハウスでは、引き続き 3 名の重度知的障害のある男女 3 名がヘルパーサービスを利用しながら生活しており、実践を通して知見を集めている。シェアハウスにはゲストハウスも併設し、外部の宿泊客を受け入れることで多様な人と関わるができる場所になっている。またシェアメイトとして県外の青年が 4 ヶ月滞在し、生活を共にした。普及活動としては、全国の当事者やその家族・支援者を主な対象としたタブロイド紙を制作・配布を行った。

■重度知的障害者 3 名のシェアハウス生活の継続

昨年度から引き続き、重度の知的障害のある男女 3 名がヘルパーサービスを利用して、たけし文化センター連尺町のシェアハウスで生活している。全国的にも例が少ない、知的障害者の重度訪問介護サービスを利用した自立生活を実現しており、スーパーで飴を鑑賞したり、ハンバーガーショップをはしごしたり、気に叶うものを求めて何時間もお店を巡ったり、それぞれにその人らしい生活を実現している。

■自立生活体験

家族と同居している障害者の自立生活の体験の場所としてシェアハウス・ゲストハウスを活用している。今年度は、2 名が体験を行った。

■シェアハウスの生活を紹介しますタブロイド紙の制作・配布

重度知的障害者が、親元や施設、グループホームだけでなく、一般の人と同等に暮らし方を選択できる社会を実現するために、当事者やその家族・支援者を主な対象としてタブロイド紙を制作・配布を行った。たけし文化センター連尺町のシェアハウスで生活している久保田壮さんの生活を紹介します内容で、当事者やその関係者の興味を引くために、ナイトクラブで夜遊びする様子を表紙として採用した。

・印刷部数：20,000 部

・配送先：JIL 加盟団体(117 ヶ所)、全国の都道府県手をつなぐ育成会(55 ヶ所)、全国の障害者芸術活動支援センター(49 ヶ所)、全国の福祉・アート・教育・まちづくりの関わる団体や個人等、合計 1,056 ヶ所



3・新施設計画事業

地域社会に貢献し、地域社会から愛され、地域福祉の拠点となる社会福祉施設をめざして、事業実施団体と設計者の協働による建築デザイン提案を含む建築関連助成事業を募集する助成プログラム「日本財団みらいの福祉施設建築プロジェクト 2021」に応募した。設計者として、渡辺隆建築設計事務所と 403architecture[dajiba]に協力してもらい、浜松市の中心市街地に障害者が日中活動する通所施設と一般向けのシェアハウス・ゲストハウスを併設した障害者のグループホームを計画した。結果は、1次審査で落選となった。

②福祉人材養成講座

「with コロナ！時代の社会包摂を担う人材育成と浜松中心市街地の新しいあり方検討」事業(助成:日本財団)の一環として、強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)と社会包摂を担う人材育成を行った。コロナ禍により失職あるいは影響を受けた方々を主な対象に、福祉分野での就職、とりわけ数の少ない知的障害のある方のヘルパーを育成するため、「強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)(2日間)」を6回開催。この研修は強い行動をとる障害者に対する理解の仕方や対処方法を学ぶもので、研修終了後は障害者の日中支援者やヘルパーとして働くことができる資格が得られる。

研修では、3名の講師による講義のほか、レッツスタッフによる日常で起こる様々な事例の紹介やワークショップを通して、レッツが長年取り組んできた社会包摂に向けた活動を担える人材の育成も行った。

研修の受講者は6回の合計で 90 名。修了後は「強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)修了証書」「重度訪問介護従業者養成研修(行動障害支援課程)修了証書」を取得した。90 名のうち 15名の方が、受講後に訪問介護事業所やグループホーム等に就職することになり、大きな成果があった。また、受講者からは「難しいことではなく、人と人がガチで向き合えばそこに資格がなくとも寄り添えることができることを教えていただきました」「常に対等な関係を意識することをおっしゃっていたと思います。例えば、親子関係や夫婦関係の中で思い出したり、(中略)こどもたちとの関係だったり。そんな中で時々思い出し、立ち止まって考えることがあります。」等の感想が寄せられた。障害のある方たちとの関わりのみならず、親子関係や仕事関係などの生活のさまざまな関わりの場面で、相手の世界観を尊重する視点を伝えられた。

なお、3回目の9月の講義は浜松国際交流協会HICEとの共催で行い、16 名の外国籍(主にブラジル国籍)の方が受講し、資格を取得した。このうち数名は福祉施設での就職を目指して活動中である。

開催日:2021 年~12 月:各回 2 日間 6 回実施(プレ研修:5/15・17 メイン研修:①7/7・12、②8/18・25、③9/17・20、④10/6・11、⑤11/29・12/6) ※4 回目はポルトガル語通訳にて実施(主にブラジル国籍の 19 名参加)

場所:Any セミナールーム、浜松国際交流協会 HICE

参加者:90 名

内容:強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)修了証取得者 90 名、うち福祉職への就職 15 名



↑実際の現場で起こる、虐待に繋がり易い状況を小芝居で見せる。職員
のユーモラスな小芝居で、虐待が起こり易い状況を立体的に理解でき
る。



↑「同じ目線に立ってみることで見える豊かな世界があります。」手を口か
ら耳にかけて覆うようにすることで、自分の声を堪能している動画を観
賞。特性そのものをじっくり見つめることで見えてくる世界を体験してみ
る。

③浜松市中心市街地の新しいあり方検討事業

新型コロナウイルス感染症の拡大により、中心市街地は廃業、失業者、空き店舗が増加し、社会的弱者の居場所や文化的事業の中止、廃止が続出している。社会包摂が思うように進まない中でコロナ禍は新たな分断を生み出しかねない。商業だけではなく中心市街地のあり方の模索が早急に必要である。

そこで、2020年11月から2021年度にかけて、「with コロナ！時代の社会包摂を担う人材育成と浜松中心市街地の新しいあり方検討事業」(助成：日本財団)を行った。

中心市街地の現状を調査し、地域における多様なステークホルダー(福祉・医療・NPO・IT・行政など)とともにワーキンググループ「浜松ちまた会議」を発足。持続可能(SDGs)かつ社会包摂(ソーシャルインクルージョン)を実現する新しい街のありかたを模索した。

1・地元45団体のヒアリング調査

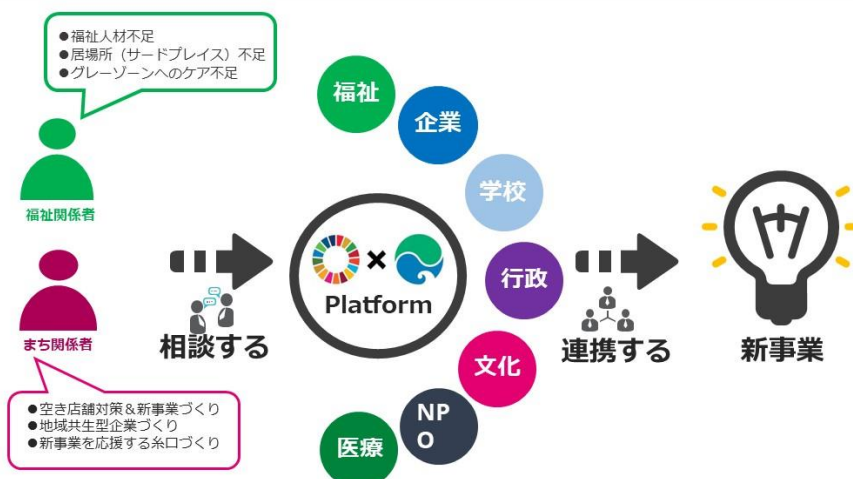
街を拠点とする企業や福祉関係者、学校、行政、まちづくりに関わる団体にヒアリングを行った。その結果、福祉分野にとっては福祉人材不足や居場所(サードプレイス)の不足、グレーゾーンへのケア不足等に課題があり、まちの企業等にとっては空き店舗対策&新事業づくり、地域共生型企業づくり、異業種や若手と共に新事業を応援する糸口づくりに課題があることが明らかになった。

ヒアリングを通して、企画書を作成し、ワーキンググループ「浜松ちまた会議」を立ち上げた。

- ・企画書「with コロナ！時代の社会包摂を担う人材育成及び浜松市中心市街地の新しい在り方検討事業」2021年3月、2021年8月2回制作

Social Inclusive SDGs Platformの構築

16



2・統計データ分析調査

事業の前提として、浜松市の人口動態、中心エリア衰退状況、障害者事業所数比較、不登校児生徒数・推移比較調査を行い現状把握を行った。

3・浜松ちまた会議

中心市街地で活躍するステークホルダー45 団体をヒアリングした中で、SDGs やコロナ禍といった社会状況の中で、本事業に興味を持っていただいた団体とともに、ワーキンググループ「浜松ちまた会議」を発足した。街づくりと福祉を考えるプラットフォームをウェブ上に構築し意見を交換しながら、研究者をゲストに2回の全体会を開催。まちづくり部会と福祉部会が派生するなど、予想以上に活動が拡大、充実した。

また、ここでできたネットワークを生かして、11月に中心市街地にある広大な空き地を活用したアートイベント「オン・ライン・クロスロード」を開催し、イベント期間中にはちまた会議メンバーを中心にトークイベント「中心市街地の今後を考える(参加者 20 名、公開配信)」、「振り返りトーク(参加者 30 名、公開配信)」を行った。

■シンポジウムの開催

3月にはゲストを招き、浜松ちまた会議フォーラム「まちづくりを考えたら、福祉にたどりついた」を開催した。ちまた会議メンバーの事例発表のほか、ちまた会議による提言「浜松ちまたビジョン」の発表を行った。コロナ禍での開催のため、定員を80名に絞り、YouTubeでの同時配信を行ったが、定員を上回る問い合わせがあり、配信再生回数1030回と全国の方々が視聴しているなど関心の高さをうかがわせた。



日程 | 2022年3月5日(土)

場所 | 鴨江アートセンター

参加者数 | 会場 80名(満員)、オンライン視聴 1030回以上

事例発表 | FUSE Co-Syartup Space&Community、浜松にぎわい協議会、みかわやコトバコ、株式会社 HACK、NPO 法人遠州精神保健をすすめる市民の会、一般社団法人みらい TALK

シンポジスト: | 小松理度(作家、地域活動家)、竹村利道(日本財団)、本後健(厚生労働省)×辻琢磨(建築家)×久保田

■報告書の作成

報告書「まちづくりを考えたら、福祉にたどりついた」を作成した。

タブロイド版 20 ページ

8000部(5000部地中心市街地配布、3000関係者に郵送)



シンポジウム動画

④「表現未満、プロジェクト」

1・雑多な音楽の祭典～スタ☆タン!!の実施

本年度はパートナー団体が開催する「スタ☆タン!!Z 全国ツアー」と、レッツが地元浜松で開催する「推し☆たん!!」を行った。全国ツアーの各地のようすや、浜松での各ステージについては、ウェブサ

イトにて報告書を公開した。

■スタ☆タン!!Z 全国ツアー

昨年度に引き続き、雑多な音楽の祭典～スタ☆タン!!を開催した。スタ☆タン!!Zでは、全国の多種多様な活動を行なっている「スタ☆タン!!パートナー」の団体が、全国各地で独自のスタ☆タン!!を企画・開催。北は福島県から南は沖縄まで、全国8箇所で開催されたスタ☆タン!!は、それぞれの地域や分野、関わる人々によって全く違った特徴をしている。しかし、そこには共通して、日常の中の些細だけれど大切な表現の光を見ることができた。

全国 8 か所、70 組参加

観客動員(ウェブ配信を含む)福島 100、新潟 150、浜松 300、五島列島 30、宮崎 70、沖縄 60(※長野は 3 月 26 日開催)依頼お願い 3 か所(アメリカ)

福島 そこをなんとか	新潟 みんなで生きる	長野 ぶっとびアート
松山 松山ブンカ・ラボ	長崎 BaRaKa	宮崎 アーツカウシルみやざき
沖縄 若狭公民館	浜松 クリエイティブサポートレッツ	

スタ☆タン!!Z 全国ツアー-2021開催!

スタ☆タン!!Zでは、全国の多種多様な活動を行なっている団体が「スタ☆タン!!パートナー」として、全国各地で独自のスタ☆タン!!を企画・開催します。

北は福島県から南は沖縄まで、全国8箇所で開催されるスタ☆タン!!は、それぞれの地域や分野、関わる人々によって全く違う特徴をしています。しかし、そこには共通して、日常の中の些細だけれど大切な表現の光を見ることができよう。ありふれた日常から飛び出して、心の奥にいたい、そんなあなたへ。

新潟
新潟県アール・ヴリュット・サポート・センター NASC
スタ☆タン!!Z - Across the Chaos -
日程:2022年2月(予定)
会場:あふみの本店
新潟県上越市西陣町2-10-25 大島ビル1階
新潟県アール・ヴリュット・サポート・センター NASC 越後アスは、地域に根ざしている様々な表現をまちの文化にたいと想い活動しています。全国のアスタ☆タン!!は、ミュージックや舞踊、語り、語り部、アートなど様々な表現がまちの文化、歴史と親しみと誇りと不安と好奇心を当りまめで頂いております。

福島
そこをなんとか
スタ☆タン!!Z feat. そこをなんとか VOL.2
日程:2022年2月(予定)
会場:いわき市平川2丁目1-1 LAITANA内
いわき市の地域活性化メディア「igoku」を手がけるデザイナー「そこをなんとか」が送るスタ☆タン!!は、職能で鍛えられた日常の中の誰かのアイを現え、四人の参加者が様々な場から集まり、居るオンライン配信番組です。些細な表現、意味不明に思われる呼びや、思わずゾクゾクしてしまうサウンド。そこには、人間の観察、表現の絶頂があるはず。

長野
ぶっとびアート
全力!あまたスタ☆タン!!
日程:2022年1月23日(日)
会場:エコーのみま
長野県北佐田郡御代田町1901-1
ぶっとびアートは、子どもと大人の遊び心でくすぐり、本気で遊ぶ。メンバーの個性が輝いた上場「あまた」御代田(あまた)町では、昨年開催の経験から「スタ☆タン!!」＝「なんでもがきこを発表する場」と確信された。ぶっとびアートは、なんでもがきこもなんでもがきこをやって、今年ぶっとびコンの全力をかけて「あまた」でやります!

宮崎
アーツカウシルみやざき
スタ☆タン!!宮崎(しゃべっ)
～new world order～
日程:2022年1月中旬(予定)
会場:宮崎県庁(金曜祝祭中)
アーツカウシルみやざきは、「文化のよろず相談所」をキャッチフレーズに、県内内外の文化芸術活動の支援を行なっています。再臨、芸術が関係するアート・ミュージック・ダンス・パフォーマンスなど様々な表現・パフォーマンスが集結したスタ☆タン!!。今年はどうなる?アーツカウシルみやざき、夏田なほは再び登場するか?どうお楽しみ!!

愛媛
松山ブンカ・ラボ
～あなたの「こだわり」をステージで観る～
(ミュージカル未演)
日程:2022年2月26日(土)
会場:シアター1010、愛媛県松山南緑町1-2-1
松山市の文化芸術振興を目的に、映画、ワークショップ、アートプロジェクト等を展開する松山ブンカ・ラボでは、公募参加者がステージでこだわりを見せる「ミュージカル未演」を小劇場シアター1010にて開催します。関連企画展覧会も同時開催!
日程:2022年2月19日(土)～3月6日(日)(予定)
会場:P.A.A.C 平和通りアートセンター(物産カフェまねね2階) 愛媛県松山南緑町1-2-1

静岡
浜松NPO法人クリエイティブサポートレッツ
～雑多な音楽の祭典-推し☆たん!!～
日程:2022年11月6日(土) 14:00-17:00
会場:松島青島遊園地「ジャン・ララン・クロノロード」
静岡県浜松市東区東通町12-1
レッツは、障害者も無し関係なく、日常の中で誰かが大切にしている表現を真摯に見つめる音楽にする場を作ってきました。今回は「推し☆たん!!」と題し、誰かの「この人の行為がグッとくる!」という「推し」の表現にちよっくを返すです。
審査員:成島洋子(公益財団法人静岡県芸術文化芸術センター) 西川昌宏(鴨江ヴンダーカンマー) 西川昌宏(鴨江ヴンダーカンマー) 西川昌宏(鴨江ヴンダーカンマー) 西川昌宏(鴨江ヴンダーカンマー)

長崎
NPO法人 BaRaKa
スタ☆タン!!映画祭 in OOTO
日程:2022年1月15日(土) 19時-21時
会場:Slow Cafe 丸の内
長崎県五島市にあるNPO法人 BaRaKa(バラカ)は、自然を愛し昔ながらの伝統的な暮らしを楽しむ人の集まり。アール・ヴリュット、伝統音楽の魅力を発信にも力をいれています。そんなNPO法人 BaRaKaの代表・片岡健吾が、互いの思いになる人々を繋ぎ、その映像記録をもとに多様な審判員と共に語り合います。

沖縄
那覇市若狭公民館
スタ☆タン!!with 若狭公民館
日程:未定
会場:若狭公民館(未定)
那覇市の若狭公民館にある若狭公民館(若狭公民館)NPO法人地域サポートわかでは、「アート+社会教育」をテーマに、ちよっくアート・ミュージックを中心としたコミュニティ活動を実施し、地域活性化に取り組んでいます。関心のある方からぜひ様々なプログラムを行う若狭公民館のスタ☆タン!!は、情報共有ウェブサイト「プログラムのたね」内でオンラインで行います!

■推し☆たん!!

スタ☆タン!!全国ツアーの浜松開催版として「推し☆たん!!」を開催した。「推し☆たん!!」とは、誰かの「推し」の表現を「この人のこの行為がグッとくる!」というアツい想いと舞台上に上げ観賞するスタ☆タン!!として今年度初めて開催したもので、「表現を舞台にあげる人」に着目し、そのひとの「推し」の表現を舞台上に上げ、存分に想いを聞く企画である。その推薦人は、スタ☆タン!!を知る浜松周辺で愉快的な活動をしている6名の方々をお願いした。そして、審査員として、静岡県舞台芸術センターSPACより成島洋子さん、鴨江ヴンダーカンマーより西川昌宏さんをお招きし、講評をいただいた。

アルス・ノヴァメンバーとスタッフによる完熟パフォーマンスから始まり(なんとメンバーが踊り終わって全力を出し切るあまり倒れてしまった!)、堂々たる発声での自作の小説の朗読&

不思議な小劇。どこか抜けているけれどその荒さにこそ魂を感じる中島みゆき。毎日見て辟易としていたけれどステージ上で見るのがちょうどいい距離という気づきを得た表現。鬼気迫る眼光で叩く太鼓と超即興のカオスセッション。蘇るあの頃のレコード屋でのアツい友情の夜…。普段見慣れたはずの人のまだ見ぬ表現や、意外な一面、そして「推し」へのアツい想い。それに対する審査員の独自の視点や言葉で見えてくる新しい姿。その交差するところを、観客だけでなく、松菱跡地に出現した交差点を歩き交う様々な人々が目撃していた。ここで生まれたものたちは、それぞれの日常に続いている。

日時 | 2021年11月6日(土)14:00~17:00

参加者数 | 125名(出演者25名+観客100名(オンライン含む))

<http://cslets.net/statan/posts/20211015/853>

会場 | 松菱百貨店跡地「オン・ライン・クロスロード」



■記録集の作成

スタ☆タン!!ウェブサイト上にPDFにて公開した。



アルパタレコード(推薦人:タティシヒロシ)



ユキヒロック(推薦人:すずやカメラ)

2・街中にぎわい創出

コロナ禍において活気を失っている中心市街地のシンボルであり、20年間空き地となっている松菱跡地(1400坪)を借りて、アート、街づくり、食をテーマに地域のステーキホルダーとともにイベント「オン・ライン・クロスロード」を行った。物販でもイベントでもない、アートによる「場」を開いたことで、産業だけが賑わいにつながるのではなく、人が集って賑わいができることを明確に示すことができた。これによって街の新しいあり方を街のステーキホルダーがともに考える機会(浜松ちまた会議)が生まれた。

「オン・ライン・クロスロード」(11月3日~7日)

総合ディレクターとしてアーティストの中崎透氏を迎え、1400坪の空き地を交差するクロスロード(交差点)を出現させた。初日に青い砂利で道をつくるワークショップを開催し、翌日から空地を開放した。駅から市役所方面への近道として道を通る人や、買い物をする人、コーヒーを飲む人、ライブを観る人々のほか、松菱百貨店時代をしのんで思い出話を咲かせる年長者もいた。空き地では、福祉施設アルス・ノヴァのメンバーがのんびり過ごしたり、子どもたちが遊ぶようすがみられた。今回初めてコラボレーションがかなったPPPデザインのチームは、独創的なしつらえの構造物を空き地に出現させ皆を驚かせた。

■道づくりワークショップ

松菱跡地にワークショップ形式で道を作った。特に子ども親子の参加を促した。

日程 | 11月3日

対象 | 家族、子ども

参加者数 | 100名

■松菱商店(マルシェ)

空き地に飲食や雑貨の店が並んだ。

日程 | 11月4日～11月7日

参加団体 | 14団体 (物販、10団体 飲食4団体)

参加者数 | 1500名

■風と砂利と音

主に県内の様々なグループによるステージイベントを開催。

日程 | 11月6日～7日

参加アーティスト | オコロン／むつみとちはや with／とびうお／tanutanuRecords／
BOKUGO／透湖／「夜のほら穴映画館」オーガナイズ／木の葉パレット
／アルス・ノヴァ利用者&音楽教室ミューレ／マッスル NTT／タムラムラ
名／inari／ジュピロ北区

参加者数 | 610名

■雑多な音楽の祭典～推し★タン!!

日程 | 11月6日

参加者数 | 125名(出演者25名+観客100名(オンライン含む))

■表現未満、クロストーク「障害・文化政策・共生社会～5人の研究者と「表現未満、」を考える」

2020年度に刊行された『「表現未満、」に関する4人の研究者によるリサーチ報告書』のエッセイを著した4人の研究者を招き、それぞれの論を紹介するとともに、クロストークを行った。

ゲスト | 長津結一郎(九州大学)、若林朋子(立教大学)、中村美帆(静岡文化芸術大学)

ジャスティン・ジャスティ(ワシントン大学)、山本浩貴(金沢美術工芸大学)

参加者数 | 50名 動画視聴者 180名

アーカイブ | <https://www.youtube.com/watch?v=KQJWKxARg4c>



■他団体開催トークイベント

街づくりトーク(PPP デザイン)

ペロリ配信番組「未来の解像度 vol.16～アートと多様性から生まれる都市とは」

オン・ライン・クロスロード

延参加者数(通行者も含む) | 5000人

総合ディレクター | 中崎透(アーティスト)

設営担当 | 大東翼(建築家)

マルシェ・物販 | 鈴木裕矢(PPP デザイン)

ステージ担当 | 吉田朝麻(音楽家)

参加団体数 | 20団体

舞台・パフォーマンス | 浜松演劇祭、浜松チンドン協会

マルシェ | PPP デザイン、浜松コーヒーフェス/トークセッティング:ペロリ、PPP デザイン



3・「GO!GO!たけぶん探検隊！」の実施

本年度は佐鳴台小学校が 9 月に実施予定で進めていたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症の拡大により急遽中止された。

4・たけし文化センター連尺町の文化創造発信事業

中心市街地にあるたけし文化センター連尺町では定期的に音楽ライブ、クラブイベント、トークイベントなど市民が参加できるイベントを行った。

■定期的なイベントの実施

- ・エアロビクス体操(6月～3月、16回 講師:竹本真由美)
- ・アート・イン・コミュニティ(8月～2月、7回 講師:ホシノマサル)
- ・かたりのヴぁ(月1回、4月～2月開催、11回、ファシリテーター:レッツスタッフ)
- ・ミドのヴぁ(月1回、4月～13月開催、12回、ファシリテーター:久保田翠)
- ・玄関ライブ

毎月1回、アルス・ノヴァのメンバーのほか、だれでも参加できる音楽ライブを実施。コロナ禍でも対策を考慮しながら1日も休むことなく実施した。その様子は動画配信され、来ることができない人にも楽しんでいただけたものとなった。

日程 | 6月～3月の毎月土曜日

延べ出演者 | 250名 会場観客総数 450名

動画配信回数 | 11回(6月～3月)、計16本

URL | <https://www.youtube.com/watch?v=o-WZJl-hMJQ&list=UUgVh1DeZ70bq4e3KDOLMk8w>



玄関ライブ

■クラブアルス

施設内で映像収録を伴うクラブイベントを4回行った。外部からDJ等を招聘し、色々な人が一緒にいる状況を音楽を通して作り出すと同時に、その模様を動画配信し、共生を音楽の力で現前させ、視聴する人が映像を通して「多様性」を間接的に体験するコンテンツを開発した。

また密になることを避けての開催のため人数制限、事前申し込み、消毒の有無、出演者へのPCR検査、スタッフの抗原検査など、実施時の定期的な換気、消毒など、開催にあたっての安全に多くの時間と労力を割くことになったが、様々なノウハウが蓄積された。

・動画配信回本数 | 6回(6, 8, 12, 2, 3月公開)

<https://www.youtube.com/channel/UCgVh1DeZ70bq4e3KDOLMk8w>



クラブアルス

1回目 | 6月19日 横村雄輝、DJ Motomitsu、参加者数 35人(人数制限有)

2回目 | 8月21日(コロナ蔓延のため中止) アーティスト名: seiichi, conn

3回目 | 11月13日 アーティスト名、岸野雄一、珍盤亭音楽師匠、参加者数 35人(コロナのため人数制限)

4回目 | 3月26日 アーティスト名 クボタタケシ NORIZM 参加者数 35人(コロナのため人数制限)

■ムラキングの妄想ラジオ(仮)(9本)

恋愛妄想詩人ムラキングのラジオ配信番組

<https://www.youtube.com/channel/UC4S51MqyY-lhHnQ3y8jOp1w>

■のヴあてれび配信

「玄関ライブ」や「クラブアルス」など、音楽関係の配信プログラムが増えたため、就労継続支援 B 型に通うのヴあてれびクルーによる「週刊あるす・のヴあ」に加えて、音楽専門チャンネル「NovaTV Music」を開設した。



妄想ラジオ

5・観光事業

■タイムトラベル 100 時間ツアー

2年間中止していた観光ツアーは、本年度からPCR検査での陽性を条件に、問合せがあった場合に受け入れを再開した。しかし、申込みがあっても直前に感染拡大のために中止になってしまうことが多かった。いっぽうで、ツアーとしてではなく、ゲストハウスに1週間程度長期滞在し、たけし文化センターで過ごすお客様もあった。

■かしたしたけし

佐鳴台小学校では本年度から「みにみにアルス・ノヴァ」に毎月招かれるようになり、悪天候や新型コロナウイルスの感染急拡大などの急なが起こらない限り、運動場や体育館で児童とともに昼休みの時間を過ごした。

また、久保田が招かれる講演や大学等での講座では、可能な限りアルス・ノヴァの利用者も同行した。

・本年度かかし先

浜松市立佐鳴台小学校(計5回)、静岡県立大平台高等学校、静岡大学、静岡文化芸術大学、東海北陸厚生局

6・表現未満、リサーチ事業

2020 年度、国内外の研究者と共に、テキスト分析・文化政策・憲法・美学の視点から「表現未満、」を検証するリサーチプロジェクトを実施したが、本年 11 月に、アメリカの研修者を含む 5 人の研究者と共にリサーチ内容の振り返りと、会場参加者を含めたクロストークを行った。

日程 | 11 月 4 日(木)

会場 | 松菱跡地(浜松市中区鍛冶町 124 番地の 1)

ゲスト | 長津 結一郎(九州大学大学院芸術工学研究院助教) / 若林朋子(プロジェクト・コーディネーター、立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科特任准教授) / 中村美帆(公立大学法人静岡文化芸術大学文化政策学部芸術文化学科准教授) / ジャスティン・ジェスティ(ワシントン大学アジア言語文学学科准教授) / 山本浩貴(金沢美術工芸大学美術工芸学部美術科芸術学専攻講師)

来場者数 | 50 名程度

動画視聴者数 | 180 回

公開 URL |

<https://www.youtube.com/watch?v=KQJWKxARg4c>



リサーチ
クロストーク

7・表現未満、メディア開発

「表現未満、」を題材としたメディア開発を行う。コロナ禍の時代の中で、情報を伝える手段としてますますソーシャルメディア、インターネットの配信等は注目されている。本事業では当法人が 2016 年から設立しているメディアコンテンツ「のヴあてれび」を、「表現未満、」や共生社会についての専門チャンネルとして強化を図った。また、障害全体をどう社会に伝えていくかを考える「福祉を編集する」を実施した。これは宿泊型ワークショップ形式を採用し、編集者、ライター、福祉関係者が集う編集人材育成プログラムを提供した。

■のヴあてれびの強化と SNS 活用

「表現未満、」について、多様性についてを発信するメディア「のヴあてれび」を、共生社会実現専門チャンネルとしてのコンテンツの開発を行った。

- ・YouTube チャンネル「NovaTV Music」と「ムラキングの妄想ラジオ」チャンネル開設
- ・玄関ライブ(配信回数 11 回、YouTube アーカイブ動画本数 16 本)
- ・クラブアルス(アーカイブ動画配信本数:6 本)
- ・ムラキングの妄想ラジオ(配信回数 5 回・アーカイブ本数5本)
- ・のヴあてれび

「週刊あるす・のヴあ」11 回配信 PV 数 2600 回

「アルス・ノヴァ 60 秒劇場」12 本 PV 数 1100 回

■「クリエイティブサポートレッツ×EDIT LOCAL 福祉を編集する！」ワークショップ実施

ローカルメディアウェブマガジン「EDIT LOCAL」とコラボし、「表現未満、」を題材としたメディア開発を行うべく、編集者やライターとともに、表現未満、や福祉をテーマとしたワークショップを実施した。福祉を編集・発信する意義を考え、地域の編集人材の育成を図った。

全国から参加定員を超える応募があり、ライターや福祉関係者のみならず学生、新聞記者、デザイナーなどの参加者が募った。ワークショップ内外で「福祉を編集する」ことについて議論の場が生まれ、外部の方と福祉現場でおこる出来事を発信することの難しさや意義を考えることができた。年度末には各グループによる ZINE が完成した。

日程 | ワークショップ 2021年12月3日～12月5日 1月～6月

講師 | 久保田 翠 小松 理虔 影山 裕樹

参加者: | 24名 (職業…大学生、大学教員、新聞記者、福祉事業所職員、相談支援事業所職員、アート NPO 法人職員、アーツカウンシル職員、デザイナー、フリーライターなど)



(7)その他、本会の目的を達成するのに必要な事業
今年度事業実施なし

■2021 年度メディア掲載

2021 年

- ・5/11 中日新聞「中心市街地共生の場に」
- ・5/28 中日新聞「中心市街地を共生の場に 浜松の障害者施設法人が提言」
- ・6/11『WIRED』日本版 VOL.41 保井美樹「COLORING THE CITY」(浜松ちまた会議紹介)
- ・7/8 中日新聞「コロナ困窮者に資格取得研修」
- ・7/11 朝日新聞「折々のことば」
- ・浜松百撰 8 月号「NPO 法人『レッツ』で強度行動障害支援者養成無料研修」
- ・8/2 福祉をたずねるクリエイティブマガジン『こここ』『ふくしの仕事してみませんか?』参加費無料の研修をクリエイティブサポートレッツが浜松市で開催
- ・8/11 静岡新聞「障害福祉の道、踏み出す力に 浜松のNPO、就労を後押し」
- ・9/17 週刊朝日「最後の読書」(久保田翠寄稿)
- ・10/11 福祉をたずねるクリエイティブマガジン『こここ』『<認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ>のプロジェクト「表現未満、」をアカデミックな視点から考察した報告書が公開中
- ・11/4 中日新聞「松菱跡に手作り『道』」
- ・11/4 静岡新聞「松菱跡地に交差点 7 日までアートイベント」
- ・11/1 『月刊社会教育』「新しい価値観の創造」(久保田翠寄稿)
- ・11/2 福祉をたずねるクリエイティブマガジン『こここ』『レッツ×EDIT LOCAL による福祉施設の PR・編集・情報発信を学ぶワークショップが開催。応募は 11 月 15 日まで!」
- ・11/11 日本経済新聞「中心市街地 再生の芽」
- ・11/13 日本経済新聞<上>「松菱破綻 20 年 更地の浜松一等地」
- ・11/14 日本経済新聞<下>「松菱破綻 20 年 失われた議論の場」
- ・10/21 福祉をたずねるクリエイティブマガジン『こここ』『壁があったら自然に曲がるー妄想恋愛詩人・ムラキンさんと企画会議してきました[前編]」
- ・10/21 福祉をたずねるクリエイティブマガジン『こここ』『恋愛は、分岐点が3つー妄想恋愛詩人・ムラキンさんと企画会議してきました[後編]」
- ・12/5 『危機の時代を生き延びるアートプロジェクト』編集:橋本誠、影山裕樹 出版:千十一編集室 掲載
- ・12/6 中日新聞『福祉を発信』関係者らが学ぶ」
- ・12/7 静岡新聞「福祉情報発信 冊子制作へ」
- ・12/8 ON-MOPLUS「福祉の仕事してみませんか」
- ・12/31 朝日新聞「松菱跡地 中心市街地に空白 20 年」

2022 年

- ・1/3 静岡新聞「人と人 社会の中で 生きる自由を」
- ・2/20 『コトノネ Vol.41』『支え、支えられ」(スタッフ渡邊亮介取材)
- ・3/6 朝日新聞「福祉の視点からまちづくりを考える」
- ・3/5Yahoo!ニュース「買い物など消費しかできない街は今後厳しくなる…問題提起に賛同の声」(小松理虔氏記事)
- ・黄敏旻 博士論文「地域課題に向き合うアートプロジェクトにおけるリーダーの役割」

浜松・旧松菱跡に手作り「道」 7日まで、屋台やライブ遊べる場

静岡 建設・不動産・住設 小売業

2021年11月4日 05:00

大 中 小



石片を敷き詰めて道をつくる参加者＝浜松市中央区の旧松菱百貨店跡地で

朝日新聞デジタル 記事

福祉の視点からまちづくりを考える 浜松市のNPOがシンポ

大平 豊 2022年3月6日 11時00分

シェア ツイート 印刷 メール 印刷



まちづくりについて議論する地域活動家の小松理恵さん（中央）やNPO理事長の久保田嘉人さん（右）ら＝2022年3月5日午後2時37分、浜松市中央区、大平 豊撮影

福祉の視点からまちづくりを考えるシンポジウムが5日、浜松市で開かれた。同市の中心市街地で障害者支援施設を運営するNPO「クリエイティブサポートレッツ」（レッツ）が主催する「浜松またた会議」。まちづくりに取り組む地元企業や福祉関係者らの報告をもとに議論を深めた。

前半のテーマは「障害者の都市生活と地域共生社会のこれから」。かつて静岡県庁に出席して 障害者福祉 を担当していた厚生労働省 課長の本後健さんは「介護や

折々のことば 2082

この言葉を聞いた時に「何ぞいまいか」という感じは「いかにあった」

コロナ禍の中で喧伝されるソーシャルディスタンス。重慶の障害をもつ長男を交点として独自の文化運動を展開するクリエイティブサポートレッツの代表は「あえて距離を取りたもな」と言う。触れないでおくという隔てをずっと経験させられてきたから、これからは距離の取り方、埋め方は自分で決める。『TURN NOTE』から。

久保田 翠

2021・7・11

松菱跡地 浜松中心街に空白20年

専門家の計画定まらず、再開発は不透明

「関わらない市の姿勢」指摘

20年空白の松菱跡地。再開発は不透明。専門家の計画定まらず、再開発は不透明。関わらない市の姿勢を指摘。20年空白の松菱跡地。再開発は不透明。専門家の計画定まらず、再開発は不透明。関わらない市の姿勢を指摘。

「壁があつたら自然に曲がる」—妄想恋愛詩人・ムラキングさんと企画会議してきました【前編】

妄想恋愛詩人・ムラキングの「恋りひとこと」 vol.01

静寂 街なかの巨大更地

2015年から20年空白の松菱跡地

2015年から20年空白の松菱跡地。再開発は不透明。専門家の計画定まらず、再開発は不透明。関わらない市の姿勢を指摘。

松菱百貨店跡客は郊外に

2021年(令和3年)11月10日(水曜日) 日本経済新聞

松菱破綻 20年

2015年から20年空白の松菱跡地。再開発は不透明。専門家の計画定まらず、再開発は不透明。関わらない市の姿勢を指摘。

人集う街へ将来像を

2021年(令和3年)11月14日(日曜日) 社会 (26)

松菱破綻 20年

2015年から20年空白の松菱跡地。再開発は不透明。専門家の計画定まらず、再開発は不透明。関わらない市の姿勢を指摘。

交渉停滞 コロナ禍も

2021年(令和3年)11月13日(土曜日) 社会 (28)

■出演・登壇

2021年

- ・4/19 東京芸術大学 Diversity on the arts 講演(久保田)
- ・6/29 東京家政大学 田中恵美子 講義(久保田)
- ・7/30 東海北陸厚生局講演(久保田)
- ・8/11「だってしょうがないじゃない」映画上映トークイベント(久保田)
- ・9/25 認知症と家族の会講演(久保田)
- ・10/18 厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業全国連絡会議登壇(久保田)
- ・11/18 聖隷クリストファー大学 地域包括ケア看護論 講義(久保田)
- ・12/2 静岡県社会福祉協議会講演(久保田)
- ・12/7・14・21 静岡大学講義(久保田)
- ・12/20 SOCIAL WORKERS LAB 「多様性とデザイン」出演(久保田)

2022年

- ・2/28 SOCIAL WORKERS LAB 「福祉とまちづくりの交差するところ」出演(久保田)
- ・3/1 新潟県アール・ブリュット・サポート・センターNASC 講演(スタン!!全国ツアー関連)

■チラシ・フライヤー・報告書他

ふくしの仕事
強度行動障害 支援者養成研修

研修受講者 募集中!

コロナ禍で 収入が不安定になった方

強度行動障害 支援者養成研修

詳しくは裏面へ!

参加無料 研修期間 2日間

「表現未満」リサーチプロジェクト クロストーク
障害・文化芸術・共生社会～5人の研究者と「表現未満」を考える～

日時/11月4日(水) 19:00～21:00 会場/松遊館(静岡県浜松市中区蔵前124番地の1)

参加/無料 参加申込/住所のQRコードを読み取り、Googleフォームよりお申し込みください。

講師/長津結一郎、若林朋子、中村美帆、山本浩貴

「高松ちまた会議」シンポジウム2022

まちづくりを考えたら、福祉にたどりついた

2022年3月5日(土) 13:30-18:40

朝江アートセンター 301号室 参加費・無料

講師/小松理度、竹村有造、本後隆、久保田啓

DJ:クボタケン & NORIZM

18:30-21:00

03.26sat at たいけし文化センター 連尺町

DJ:scitchi/Conn

2021.6.19(土) 18:00-21:00

DJ:scitchi/Conn

2021.8.21(Sat) 18:00~21:00

DJ:scitchi/Conn

2021.11.16(日) 18:00-21:00

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ × EDIT LOCAL

福祉を編集する!

12/3(金)~5(日)

参加費 無料 定員 20名

会場/たいけし文化センター 朝江アートセンター

